

大日ヶ岳・鷲ヶ岳

【日程】2013年5月5日～2013年5月6日

【エリア】奥美濃

【形態】ハイキング

【メンバー】清岡 青木 八尾

【報告】清岡

《ルート／タイム》

5月5日

桑ヶ谷林道終点（10：30）～いっぷく平（11：15）～鷲ヶ岳（12：20/13：10）～
林終点（14：30）～檜山荘（16：00）

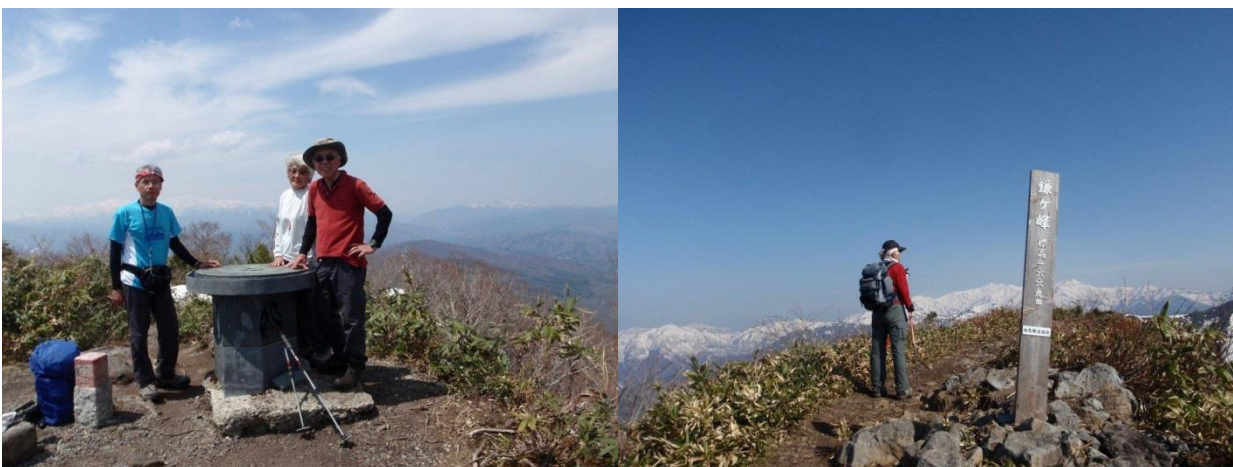
5月6日

檜山荘（5：40）～水後山（7：30）～鎌ヶ峰（8：20）～大日ヶ岳（9：00/9：40）～
鎌ヶ峰（10：18）～水後山（10：40）～檜山荘（11：50）

《報告》

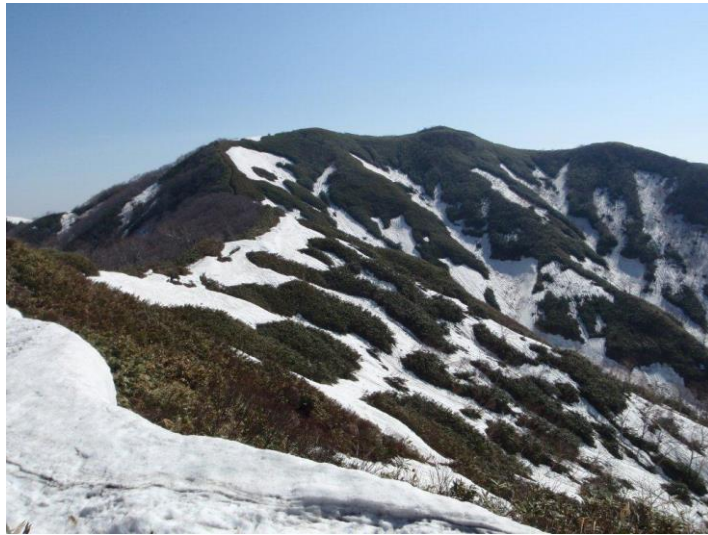
5月5日

でこぼこの山道、車を走らせ、KもYもこれから目指す鷲ヶ岳に思いをめぐらせていた。今日は好天に恵まれ、期待は膨らむ。しかしAは半年前に登った思い出を辿っていた。たとえ300名山といえども、鷲ヶ岳は彼にとってはボツ山であった。ただただひたすら階段を上った記憶しかなかったらしい。どんより曇った空、見えるのは目の前の階段のみ。しかし来たからにはピークを踏むことしか目的はなかったらしい。



（左）鷲ヶ岳山頂の方位盤の前で（後方は白山） （右）日本の分水嶺に行く

途中、いっぷく平に出たとき、Aの鷲ヶ岳に対する印象が180度変わった。目の前の白山、別山、そしてあす登る予定の大日ヶ岳に続く尾根を見た瞬間であった。雪に覆われた山々、360度展開する光景、さすが300名山であると。今日の好天が彼の暗い思い出を一変させたのである。山頂からは北アルプス、御嶽山も目に飛び込んできた。それほど空気は澄んでいた。山を堪能しながら昼食。ひょっこり槍の先端が見えるといいなとおもいつつ、蕨の藪を採取しながら下山。



(上) 大日岳のピーク (最左のこんもり)

檜山荘に向かった。山荘の周りには静かにそっと座禅草が咲いていた。Kの後輩という方を交えて、まきストーブを囲みながら、蕨の藪入りのすき焼きで楽しい時を過ごした。

真夜中0時過ぎ、外に出ると満天の星空。明日も好天だ。

5月6日

5時半山荘を出発。2年前の冬、12月、大日ヶ岳にワカンで登った。あの時はただただ苦しい山行だった。一步足を前に出すと、ズボーと雪の中。やっと脱出し、一步歩くとまたズボー。その連続だった。勿論季節は違うが、登りやすい山だ。決して低山でもない。とにかく歩きやすい山だった。

降った雨水が山の背をはさんで左は日本海、右は太平洋に流れ込む、そんな分水嶺を今、大日ヶ岳を目指し歩いている。白山、別山、あの下の方には三ノ峰の避難小屋、たぶんあれが荒島だろう、赤兎、毘沙門岳.....真っ白な雪をいただいた山々、自然の壮大な美しさに見とれながらの山行だった。ピークは一面雪、雪、雪。大日如来さん横の方向盤を見ながら、果てしなく続く山々に釘づけになった40分であった。

山荘に戻り、記念撮影。”さようなら、また来る日まで” と釣鐘の音に送られ、満天の湯に急いだ。昼食後、次回の山行に夢をつなぎながら、帰路に着いた。楽しい二日間だった。



(左) 白山を背景に大日岳山頂にて



(右) 檜山荘の玄関で